

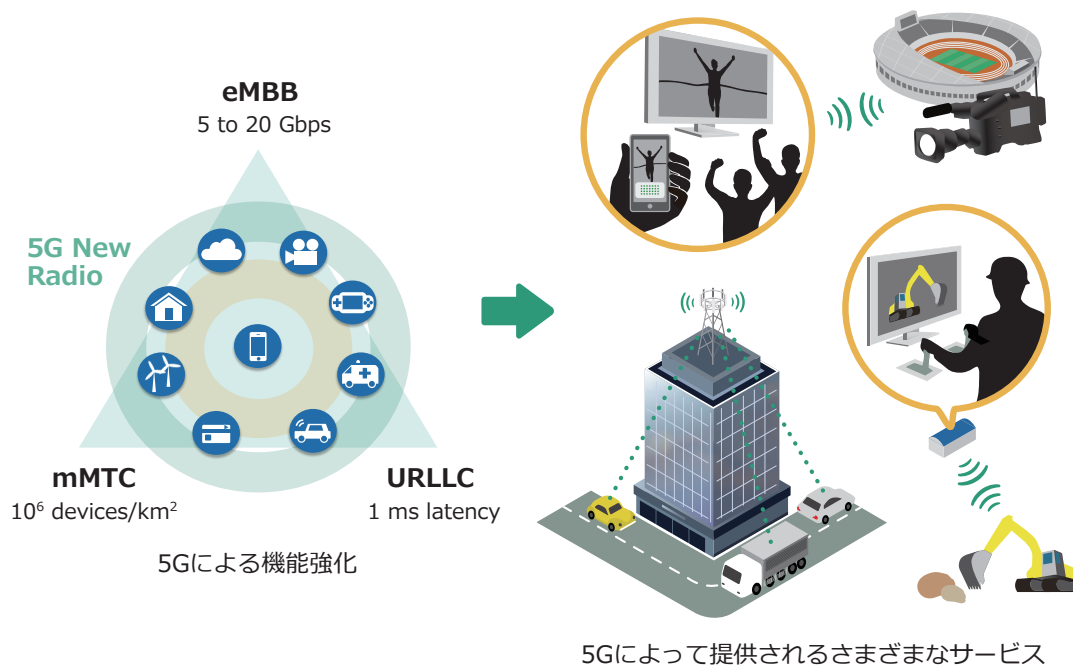
効率的な5Gデバイス向けIP Throughput 試験環境の構築に貢献

SmartStudio NR
Radio Communication Test Station
Signalling Tester

MX800070A
MT8000A
MD8475B

IP Throughput試験の重要性

5Gは「超高速 (eMBB)」「多数同時接続 (mMTC)」「低遅延・高信頼 (URLLC)」の3つの切り口で機能強化が進められており、エンターテインメントやナビゲーションといった従来のサービスに留まらず、建築機器の遠隔操作やAR/VRを使用したサービスの提供が期待されています。5GのPhase1 (Rel15) は、導入期における「超高速 (eMBB)」の切り口を中心に強化しており、4Gに比較して各段に高速なIP Throughputの実現を目指しています。

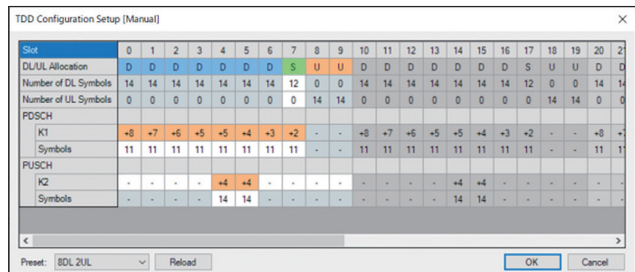


これに伴い、通信量増大によるバッテリー消費や端末の発熱など、端末の安定性評価はより重要になります。また、端末のスペックを示す指標としての最大Throughput評価が必要になります。しかし、IP Throughputの評価需要が高まる一方で、評価には下記のような問題があります。

- 5Gのネットワーク環境がまだ整備されていない。
- 実網ではサーバ負荷や無線環境によりThroughputがダイナミックに変動してしまう。
- 試験パラメータ数が指数的に増加し、評価負担増。

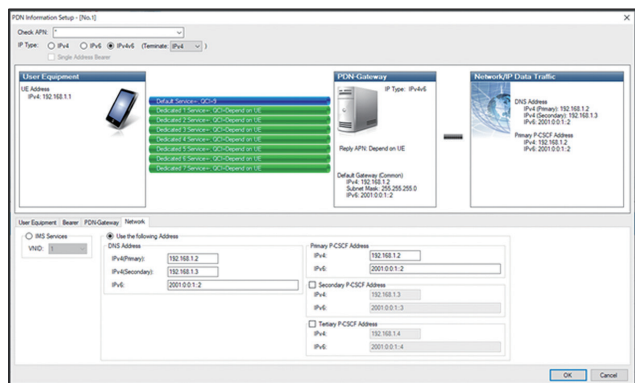
SmartStudio NRを使用することで先述した問題を解決し、端末評価の効率化に貢献できます。

SmartStudio NRを使用することで、柔軟なパラメータ設定や再現性の高いIP Throughput試験環境の構築が可能です。Throughputに関連する柔軟なパラメータ設定およびThroughput値の確認（端末としての性能評価）、およびオペレータごとの設定（各オペレータ仕様にそったThroughput値の確認）が簡単に実施できます。



TDD Configurationなどオペレータ特有の設定もGUIから簡単に設定可能。

何か問題が起きた際のトラブルシューティングや、外部サーバへの接続などの応用的な試験を実施することも可能です。Throughputが出ない、状態遷移ができない時のトラブルシューティング (Log解析) や、外部サーバやインターネット接続を使用した実アプリ検証までSSNRを応用することにより、さまざまなことができます。



外部サーバやインターネット接続も簡単に設定が可能。

